

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 1 年度目（令和 6 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		584	t-CO ₂
（温室効果ガス換算）	②非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	③メタン		t-CO ₂
	④一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑤ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑥パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑧三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑨エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
温室効果ガス総排出量（①～⑨合計）		584	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 5 年度		令和 8 年度		令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度			
温室効果ガス総排出量	554	t-CO ₂	514	t-CO ₂	584	t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対 基準年度）			7.1	%	▲ 5.5	%		%		%
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対 基準年度）						%		%		%

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 5 年度		令和 8 年度		令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度			
原単位当たりの排出量										
削減率（対 基準年度）				%		%		%		%
原単位当たりのみなし排出量										
削減率（対 基準年度）						%		%		%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

酷暑に伴う冷房運転の延長によりガスを多く使用したため。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
 備考3 原単位当たりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量当たりの温室効果ガス排出量をいいます。
 備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び非化石エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制等に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
一般管理	<ul style="list-style-type: none"> ●エネルギー使用量の把握、計測、記録、分析 ●設備運転管理方法を文書化 ●主要設備等点検、記録、検査措置の記録、管理 	継続する	実施
省エネルギー・省資源の推進（冷暖房）	<ul style="list-style-type: none"> ●設備の運転時間・温度・外気導入量の管理 ●24時間系統用熱源を23:00～翌5:00のみ運転 ●暖房時、高層用冷温水発生機を停止して、低層用冷温水発生機のみ使用 	継続する	実施
省エネルギー・省資源の推進（設備運転の効率化）	<ul style="list-style-type: none"> ●蒸気ヘッドバルブの保温 ●西庁舎地下駐車場の送排風機は、「CO濃度」でインバーター風量制御 ●低層用空調機はインバーター制御（通常・中間期） ●VAV（可変風量）制御の採用 	継続する	実施
省エネルギー・省資源の推進（給湯）	<ul style="list-style-type: none"> ●定期的にボイラーの燃焼チェック及び調整 ●燃焼が安定する最低排ガス酸素濃度に調整 	継続する	実施
省エネルギー・省資源の推進（点検及び運転管理の適正化）	<ul style="list-style-type: none"> ●中間期等は外気による空調の導入 ●電気設備用のPACエアコンは冬季停止して、送排風機による外気冷房を実施 	継続する	実施
省エネルギー・省資源の推進（受変電設備）	<ul style="list-style-type: none"> ●力率の自動制御 	継続する	力率100%
省エネルギー・省資源の推進（昇降設備）	<ul style="list-style-type: none"> ●エレベーターの使用を控え、階段等の使用の促進 	更なる徹底を目指す	実施
省エネルギー・省資源の推進（照明設備）	<ul style="list-style-type: none"> ●共用部照明器具の計画的なLED化 ●器具及び電球の取替が発生した時点で、LEDに変更 ●始業前や昼休み中の執務室の消灯 ●不在時及び不使用時の消灯 	更なる徹底を目指す	実施

指針第2号様式

(2) 非化石エネルギーの利用の状況

ア 非化石電気の使用状況

指標	非化石電気の使用状況						目標 (2030年度)	
	令和 6年度		令和 7年度		令和 8年度			
使用電気全体に占める 非化石電気の比率	100.0	%		%		%		%

イ 計画期間 1 年度目 (令和 6 年度) における非化石エネルギーの利用状況

非化石エネルギーの使用量	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
k1	t-CO ₂

(3) 未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 1 年度目 (令和 6 年度) における未利用エネルギーの利用状況

導入年度	設備等の種類	概要 (規模、性能、発生エネルギー量等)

イ アのうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	未利用エネルギーの種類	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
電力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(4) 環境価値 (クレジット等) の活用の状況

計画期間 1 年度目 (令和 6 年度) におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(5) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量 (みなしの削減量) の合計

t-CO ₂

(6) 電気の需要の最適化に資する措置を実施した日数

日

(7) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

--

(8) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

--